

## 市民参加型ワークショップ

住み続けたいまち、何度も訪れたいまち京都  
～創ろう！新・京都スタイル！～

- ・好きと感じる京都の良さとは？
- ・私たちは何を継承し、創り、未来へとつなげていくのか？
- ・そのために私たちはどのような行動を選択していくのか？

# 「住み続けたいまち、何度も訪れたいまち京都 ～創ろう！新・京都スタイル！～」

- 開催日時：2020年11月30日（月）10:00～12:00
- 開催場所：京都御池創生館 地下1階
- 参加者：22名
  - 一般参加（市民）：17名
  - 京都市職員（市民協働ファシリテーター研修受講生）：5名

# ワークショップのテーマ

## 開催背景

- SDGsにおいて掲げられている国際目標を、2030年までに達成するために、世界の全ての国・地域だけでなく、民間企業や個人一人ひとりが取り組まなければならない。
- 京都市は、「100のレジリエント・シティ」の一つの都市として、あらゆる危機を乗り越え、1000年後も京都が京都であり続けることを目指している。
- これまでは、言葉自体の認知度を高め、周知することに取り組んでいたが、より多くの人に「じぶんごと」としてSDGs及びレジリエンスを実践してもらおうフェーズに来ている。
- 京都は千年の都として幾多の危機を乗り越えて、持続的に発展してきた土壌があり、それらはSDGsやレジリエンスに取り組む上で、学ぶべき資料・教材にもなる。
- 京都の持つ財産（ひと、もの、こと、場所）を、持続可能な形として、市民や民間企業等の協働により、市民や観光客を問わず子供から大人まで幅広い年代が「SDGs・レジリエンスの体験」を通じて、正しい知識を楽しく学んでもらいたい。

## 本ワークショップにおける問いとゴール

- **問い：住み続けたいまち、何度も訪れたいまち京都～創ろう！新・京都スタイル！～**
  1. あなたが好きな京都の「場所」や「暮らし」の中で感じる京都の良さは？
  2. 京都の暮らし方、文化、習慣、新しい取り組みの中で次の世代に継承していきたいものは？
  3. これらを受け継いでいくために必要なことやアイデア、方法は？
  4. 今の子どもたちが大人になる頃、どのような京都になってほしいか？
  5. 未来の京都の暮らし＝『新・京都スタイル』を体験できるプログラムを作成。
- **ゴール：①ワークショップ参加者に、身近なところにSDGsに繋がる「ひと」「もの」「こと」「場所」があることを気づいてもらう。②所管課に、『新・京都スタイル』を体験できるプログラムを提案し、京都ならではのSDGsを感じられる「ひと」「もの」「こと」「場所」そしてこれらを継承していくための仕組みや、様々なセクターが協働する仕組みについてのアイデアを提供できる。**

## 1. 問いの共有

- テーマ所管課から問いの共有。
- ファシリテーターからワークショップの問いとゴール、進め方、ルールの説明。

## 2. 2人組での対話（ストーリーテリング）

- 「あなたが京都で一番好きな『場所』は？」 「あなたが『暮らし』の中で感じる京都の良さは？」という2つのテーマで、2人組で対話。その後、何組かの内容を全体で共有。

## 3. グループでの対話（ワールドカフェ）

- 「京都の暮らし方や文化、習慣、新しい取組などで次の世代に受け継いでいきたいものは？」 「これらを受け継いでいくために必要なことやアイデア、方法は？」という2つテーマで、途中でメンバーを入れ替えながら、小グループで対話。

## 4. チームづくり（マグネットテーブル）

- 「今の子どもたちが大人になる頃、どのような京都になっていてほしいですか？」というテーマについて、各自が紙に自分の考えを記述。その紙を参加者同士で見せ合い、一緒に検討するチームを形成。

## 5. アウトプット作成（クイックプロトタイピング）

- チームで参加したい！おすすめしたい！と思える**未来の京都の暮らし**=『**新・京都スタイル**』を体験できるプログラムを作成。
- 旅行会社の社員になったつもりで、お客様（他のチームのメンバー）にプログラムを売り込むつもりで発表。

## 6. 発表

- 各チームのアウトプットの発表

## 7. テーマ所管課から

- SDGsについての解説及び、ワークショップを踏まえた**今後の展望**について説明

# 「京都の良いところ、引き継ぎたいもの」は何か？ どう引き継ぐか？

## ◆京都の魅力とは

### 観光地

- 京町家、寺社、公園等の街並み
- 美術館や琵琶湖疎水等の施設
- **インスタ映え**する景観
- **歩いてこそ楽しい**。小さな発見。

### 産業

- 西陣織、清水焼等の**伝統産業と最先端企業**。
- 伝統と革新。古いものと新しいものの融合。

### 学生のまち

- 大学が多い。**住民の1割が学生**。

### 地域コミュニティ・絆

- **地域のつながりが強い**。
- 地元に着した祭りがたくさんある。

### その他

- 水が綺麗。



ねらいに対してどのような成果があったのか？

アウトプットサマリー：

「京都の良いところ、引き継ぎたいもの」は何か？ どう引き継ぐか？

### ◆次世代へ引き継ぐ方法・アイデア

#### 観光地

- ・ **VR**を活用して、遠方の人でも観光できるような仕組みをつくる。
- ・ 廃れそうな京町家は、商業へ転用する等して**存続させていく**。

#### 産業

- ・ **SNS**をつかって、京都の**新旧をアピール**していく。

#### 学生のまち

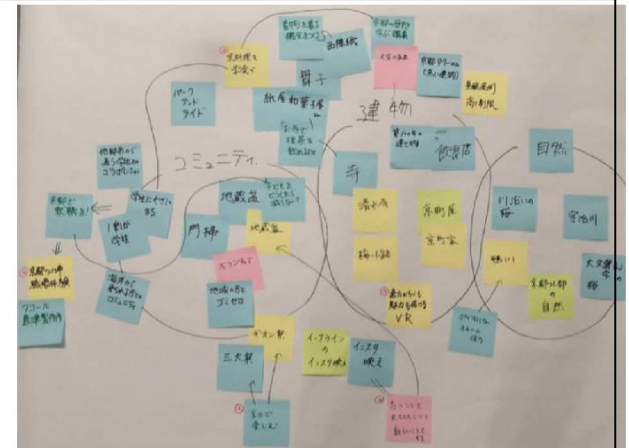
- ・ **大学の授業**で、京都について**学んでもらい**、京都を**好きになってもらって**、卒業後も**住んでもらう**、**働いて**もらえるようにする。
- ・ 伝統産業の仕事体験等を通して、京都の良さを**体験してもらい**、興味を持ってもらう。

#### 地域コミュニティ・絆

- ・ 市民が**マイクロツーリズム**を実施し、**市民と観光客のつながり・絆**を強化させる。

#### その他

- ・ **日頃から**水を大切にし、きれいな水を後世にのこす。
- ・ **小学校の授業**で、京都（地域）ならではの**お祭り**を学び、**文化を継承**していく。



## アウトプットサマリー：

# ワークショップ参加者が提案する「新・京都スタイル」を体験できるプログラム

### 1. 「#選べる京都。私だけの京都体験」ツアー

京都に住んでいる自分たちが京都の魅力を知っていないとほかの方にも伝わらない。ターゲットは大学生や若者。

午前中は事前学習。午後からは3つのコース（和菓子、友禅体験、日本画や陶器）に分かれる。

途中、バス移動で観光しながら歴史を学ぶ。

最後に3つのコースの参加者が集まって体験を共有する。

インスタグラムでハッシュタグをつけて発信する。

### 2. 「ちょっと京都でホームステイ」ツアー

地域とのつながりを大切にしたい。

地藏盆などの日に合わせて観光。地域住民と一緒に歩いてまちの歴史を知ってもらう。地域住民になったつもりでホームステイをする。夕食は京料理でおもてなし。

観光ガイドや旅行ブックには載ってない地域のつながりを知ってもらって、京都を深く知ってもらい、京都に住んでもらえるようにする。

### 3. 「自転車で京都を観光」ツアー

京都を活性化するためにはお金を落としてもらう必要があるため、インバウンドは不可欠。欧米で自転車文化が発展しているため、自転車に着目。

自転車で観光しながら、着物体験やARで昔の映像を見る体験。

現地に行けない海外の人には体験映像をVRで送って共有。

プロモーションとしてもARやVRは使える。

### 4. 「学生のための仕事体験」ツアー

午前中は仕事体験。昼食は社員さんが通っている地元のお店や京都の伝統的な昼食を食べる。夕方に企業や農家さんとの就職相談。その後は飲み会で京都の公務員や学生とのコミュニティをつくる。就寝。これを1週間または数日間使って一日では体験できないプログラムにする。

京都は大学生がたくさんいるが、就職のときにいなくなるのはもったいない。農業や伝統的なことを体験してもらって京都に定着してもらう。

京都は京都以外から来た人が一流企業を作っているまちであり、起業してもらいたい。